|終戦から67年の月日が流れ、

戦争を体験した人が少なくなってきました。

親から子どもへ、祖父母から孫へ

自分が経験した戦争体験を語り継ぐ機会も激減しています。

いつまでも平和の重み、命の重み、

それらを受け継いでくれた先人たちのことを忘れてはなりません。

今月は、戦争体験者の声や語り継ごうとする人の思いから、

平和の尊さについて考えます。

戦争を知らない世代が、戦争の記憶を心に刻み、

これからもずっと、つないでいけるように。

平和のバトン

戦争を体験した人 語り継ごうとする人の 思いに触れたことで 高めた平和への思い



私は、この伊予地区が大きな戦争に巻き 込まれていたのでびっくりしました。男 の人が戦争に行くのを送っていくお母 さんの気持ちがよくわかりました。ここ にも飛行機が来て爆弾を落として、たく さんの命が消えていってとても悲しい

気持ちでいっぱいでした。人の命はもっ

と大事にしようと思いました。

白石泰晟くん

昌農内で戦争があったことを初めて知 りました。こんな話をまわりの大人は話 してくれなかったので、紙芝居をしてく れたことに感謝します。今度は自分たち が子どもたちに戦争のことを伝えてい きたいです。ぼくらも戦争について深く 考えてみようと思います。戦争を止める ために何ができるかを考えてみます。



昔の人は、いつばくだんを落とされるか 分からず、いつも恐怖に包まれていたの だなと思うと昔の人ってすごいと思いま した。戦争している時は食べ物があまり なく、食べるとおなかがすぐにふくらむ さつまいもなどを、子どもでも自分で育 てて食べるというのを聞いて、今の自分 の幸せを重く感じました。



話を聞いていろいろなことを感じました。 一つ目は、死んでいる敵兵士に石をなげつ けたことです。普通だったら助けてあげる のに、けったりするのは、それだけ家族の ことがあって悲しかったんだと思います。 二つ目は、戦争はおこしてはいけないとい うことです。いろいろな人が死んでしまっ て、戦争はやってもいいことはありません。



今まで広島、長崎のことばかり考えていて、 自分たちがいるところまでは調べていません でした。戦争から60年しかたっていないの に、今はこんなにみんな幸せでいられるって いいことだと思いました。日本のことだけで なくほかの国のことも考え生活していきたい です。紙芝居であった戦争で亡くなった人 のお墓にも行ってお祈りをしたいです。

じて子どもたちへとバトンパス 和の尊さを考え、平和を願う気 を芽生えさせたのです。 を伝えていきたい」という思い 子どもたちの心に「自分が平 平和を願う気持ちの高まりは、 持ちを高めたのです。そして、 平和への思いは今、学習を通

話、戦争体験者の声から、戦争 じました。そうすることで、平 の悲惨さや悲しみを身近に感 子どもたちは、平井夫妻の した。 とを伝えていきたい」と思いま たちが、子どもたちに戦争のこ

白石泰晟くんは「今度は自分

ではありません。そこにはたく てはいません。 う」「怖い」という感情で終わっ ですが、話を聞き、「かわいそ た」という言葉がありました。 さんの「平和の大切さを実感し えるのは戦争体験の風化だけ 戦争を知らない子どもたち 子どもたちの感想文から見 和の尊さを実感

分が経験した悲惨な戦争を語 から子へ、祖父母から孫へ、 り継ぐ機会は激減しています。 から子へ、祖父母から孫へ、自方では、核家族化も進展。親



1_6月4日、岡田小学校で紙芝居を使って戦争体 験を伝えた平井夫妻 2_紙芝居の1コマ。戦争に 小学校の校舎すれすれを飛び越し、河原へ不時着







わるわけにはいかん」 としてあった。『昔のこと』で終 屯さんはそんな思いで、自身

芝居ができたのは11年前。当初 るだけでしたが、いつしか広が は、昌農内の行事などで話をす を、子どもたちにも分かりやす が小学2年生のころに見て感 いように紙芝居にしました。紙 じた戦争の話、伝え聞きした話

い』って」と話します。

子どもたちは戦時中の話に

さや平和の尊さに気づく学習 を持ち、進んで調べ、戦争の怖 行を通して、広島の原爆に関心 で広島に行く6年生が、修学旅 習の時間を使って「平和学習」 に取り組んでいます。

紹介しています。6月4日、 代榮さん夫妻。自作の紙芝居を れた昌農内の平井屯さん・千 戦時中の様子を子どもたちに 戦争体験者が語り部となって、 り部として岡田小学校に招か 岡田小学校では、数年前から 語

の平和学習にたずさわる屯さ 使って、昌農内の戦争と暮らし について語りかけました。 5年ほど前から岡田小学校

んは言います。 「戦争は、この田舎でも現実

びます。広島と長崎に原子爆弾 た」という感想文です。 教科書では戦争のことを学

日が流れ、戦争を体験した人が 験者の高齢化も進んでいます。 少なくなってきた現代。戦争体 意味します。終戦から67年の月 て映っていることも確かです。 出来事、はるか昔の出来事とし それでも戦争はどこか遠くでの が落ちたことも知っています。 それは「戦争体験の風化」を

内の小学6年生は、総合学 修学旅行

になったといいます じているから、それを少しでも 争にならない世の中にしてほし ような気持ちです。『二度と戦 ます。子どもたちに願いを託す いう思いで読ませてもらってい 子どもたちに伝えていけたらと らし、つらさ、悲しさを肌で感 千代榮さんは「私も戦中を募

妻が今に訴えかけるメッセージ 真剣な表情で聞き入り、平井夫 を胸に刻みました。

戦争体験の風化

は感想をつづっています。その があったことを初めて知りまし 中で多くあるのは「松前で戦争 紙芝居を見た後、子どもたち

広報 まさき ❖ 2012-8 4

平和と希望をつなぐリレー

激動の時代を生き抜いた人たちの心には、戦争の記憶が消えることなく残っています。 語り継いできた先人たちは今の平和を実感し、この平和な日々は先の戦争への反省の上にあると知っています。 私たちもその思いを後世につないでいかなければなりませんが、バトンはつながっているのでしょうか。 語り継ごうとしている人の話から考えてみましょう。

> 平和の いくことが使命 次の世代に語り継いで 悲惨さ ありがたさを

遺族会の組織率は次第に低下。 町遺族会の八束兼福会長は胸に秘めた思いを熱く語った。 「国を守った英霊たちのため、歴史を風化させてはならない」

英霊の御霊を慰め、平和を希求する。 残された遺族らは「遺族会」を組織。 しかし近年、世代交代などにより 戦争で命を捧げた英霊は、本町で742柱以上。

てきませんでした。

遺族会」として活動しています。 供養▼戦争のない平和社会の構 族会は▼尊い命を捧げた英霊の 松前、北伊予、岡田でもそれぞ の組織が合併。新たに「松前町 きました。昭和30年には3校区 れ遺族会が組織されました。遺 などを目的に活動を続けて |後間もなく、県下全域的 に遺族会の結成が進み、

そうで、病死ではとも言われて話では、兄も病気になっていた死した軍人が多かった。戦友の難で、飢え死にやマラリアで病 現在、会員は約705人です。 資さん) は、遠く離れたビルマ で戦死しました。ビルマは食糧 います。残念ながら遺骨は戻っ 私もその遺族の一人。兄(祐

次第に減少。高齢化の一途 をたどっています。松前校 数える程しかいなくなってせん。戦没者の父母や妻は 没者に対する関心が弱まっ しまいました。遺族会員は てきたように思えてなりま 時代の変化とともに、戦



平成 24 年度戦没者合同慰霊祭 9月11日(火)受付9時~ 式典9時30分~ 松前総合文化センター2階 ふれあい展示室 圓福祉課障がい福祉係 ☎ 985-4155 思っています。 世に語り継いでいかなければと 歴史が風化してしまうのでは もたちに語る機会をつくり、 ないかと危惧しています。 きず、活動を停止した状況です 私たち会員は、このままでは

者合同慰霊祭を行っていただい年に1度、町のご好意で戦没 を願って、英霊は命を捧げまし 列者が少ないのです。 ていますが、申し訳ないほど参 わせることは、遺族でなくても た。その精神に感謝し、手を合 国の安泰

必要だと思うのです。 742柱の英霊を慰めるた

いただきたいと思っています。 め、今年も慰霊祭が開かれます。 人でも多くの皆様に参列して

専門書ではないので、忘れてし

という声の高まりを受け 北伊予の伝承で「戦争」を特集

る皆さんには強い思いがあった

んでした。それだけ編集に携わ

ええ?」と相談の声が絶えませ 「館長、このときはどうしたら 編集委員の皆さんは一生懸命聞 ことは実に大変な仕事でした。

いそうな戦争についてまとめる いました。もはや風化してしま

いて回り、

書いてくれました。

をテーマにすることが決まりま 思いと重なって、すぐに「戦争」 じゃないか」という編集委員の る人がいなくなってしまうん

たり聞いたりしたことを書いて

作業としては、編集委員が見

ださいました。

私たちの取り組みは歴史の

さんある」と、涙声で話してく 名簿にも思い出すお名前がたく れてどうにもならない。従軍者 う人は、「赤紙を見て、涙があふ ほしい」との声が地域の中で高

ありました。

社の子の伝承

戦争をテーマとして編集し、平成12年3月に発

たちの努力を決して忘れないた できる基礎を作ってくれた先人 り越えて、現在の豊かな生活が ら、あのような苦しい生活を乗 そうと取り組みました。なぜな ので若い人に伝えたいことを残 まわないうちに、語り部的なも

第5集は、戦争について身近

行された「北伊予の伝承」

だきました。関係者としてはこ 各小中学校でよく活用していた なことがよくわかるといって、

の上ない喜びでした。

ついての記録を残しておいて

以外の方々からも大きな反響が 媛新聞で紹介されたため、地域 たと喜んでいただきました。愛

]ろ、「早い機会に戦争に | 5集のテーマを決めるこ

う数年したら戦争について聞け まっていました。その声が、「も

(赤紙)をたくさん書いたとい勤めで、残業を重ね、召集令状

その第5集では、「戦争」をテーマに取り上げた。 平成24年3月には第11集が出版されている。 昭和63年3月に初刊され、 編集に携わった水口憲三元東公民館長に聞いた。 作成され続けている本がある。「北伊予の伝承」 北伊予の伝承を学び伝えようと、 各地区で推薦された20余名の編集委員によってテーマを決め

たときでもありました。

しく待ち望んでいたものができ 発行後は、地域の方々から久 いつつあるということを実感し

編集委員の不満の声も聞かれま 話をできる人がおらん」と言う

「もう遅い。聞きに行っても

した。戦争体験が風化してしま

戦争についての記録を残してほしい

7 2012-8 ❖ 広報 まさき

まさき * 2012-8 8

戦時中の暮らしは全て戦争のために制限されました。 政府は、人々を戦争に協力させるために戦時体制を強めていきました。 当時の松前町の様子を振り返ります。 昭和20年8月15日の終戦を迎えるまで、

莫大な犠牲を出した戦争

を消費しました。 世界大戦に突入しました。こ 事変が長期化してきたころか の戦いこそ未曾有の大戦で、 入り、昭和16年12月、第二次 ら、日本は完全な戦時体制に 人的にも物的にも莫大な国力 昭和12年に勃発した日華

殉国された計742柱です。 ます。日清戦争以後の困難に 境内の忠霊塔に合祀されてい す。町内の英霊は、義農神社 て、戦死または戦傷病死した 人は600人近くに及びま 町内でもこの戦いに応召し

ほしがりません勝つまでは

料など、生活に欠かせない物 戦時中は、食料、 衣服や燃

> にも「マッチ・砂糖・清酒・ない耐乏生活。松前町の店頭も自由に手に入れることがで 勝につながる道と信じ、 までは」というスローガンを できませんでした。それでも 切符なしでは、買うことが 木炭・肥料など切符に願いま 由な生活に耐えていました。 心に銘じ、この耐乏生活が戦 人々は「欲しがりません勝つ す」という張り紙が出され、 由に手に入れることがで 不自

までも増産につとめました。 して軍需工場に、小学校児童 の減退をもたらしました。 未婚の女子は女子挺身隊と

> い松並木は伐られ、芋畑にな中の数百年を経た300本近 松やにの採取など、松前―郡 開墾作業、農家の手伝い

勝つための教育

に戦時教育が取り入れられ、 つため」のものへと変わって 教育は小学生まで「戦争に勝

発令され、勉強どころではあ は、毎日のように空襲警報が 後半から20年の前半にかけて どを植えていました。19年の 畑にして大豆やサツマイモな 産の目的で、運動場の半分を

口の減少などは、農業生産力料の激減、動員による農村人

物資の入手は窮屈に。化学肥

昭和17年ごろからは一段と

しまいました。 第二次世界大戦時は、急速

ませんでした。終戦までの 昭和18年後半には、食糧増

▽校庭でのいも作り (岡田) は集会所などで授業(松前)

(松前)▽空襲のため初三以下

の被害は計り知れないものが 日夜の松山空襲は、米軍B29を受けました。中でも7月26 害は軽微でしたが、有形無形 から大勢の人が避難してきま 爆撃機が松山市を爆撃。市内 した。松前町の空襲による被 昭和20年、空襲は熾烈とな 重要都市は壊滅的な被害

まき(北伊予)▽青少年義勇 軍入隊(岡田)▽職員の出征 多くあります。 学校日誌には次の様な記事が ▽運動場・校庭空地に大豆

松山空襲の余波災害

ました。私も静子を抱いて門 松山までは、父が付いて行き されていたので朝4時に出発。 諜のため派手な見送りは禁止 なりました。そのころは、防 間前に戻り、生まれた時はう 主人は訓練へ。翌年4月、子ど のところまで出て見送ったら、 れしそうに抱いてくれました。 も (静子さん) が生まれる1週 主人が戻ってきたので「どした 9月、夫は出征することに で帰りを待ちました。 昭和16年、静子さんが生まれたときに、

重忠さんの妹と共に撮った写真

と遠くまで送ってくれるんや ないんか」って。それから、主 人は戻ってきませんでした。 んですか?」と尋ねたら、「もっ

の夫 (重忠さん) の元へお嫁入

]年1月4日に3歳年上 |が22歳のころ、昭和15

しました。8月、動員が来て

戦時中の暮らしぶりや、戦争で抱え、胸にとどめた記憶を語っていただきました。

今、あなたに平和のバトンを渡します。

終戦を過ぎてもなお心の傷がいえることはありません。

人生を変えた戦争、未だ訪れない心の終戦。

すら無事を祈り、娘やみんな いつも「静子を頼む」「家を頼の手紙が届きました。いつも む」と書いてありました。ひた ました。主人からはたくさん もと一緒に写った写真を送り 戦地のニューギニアに子ど

裸足で走ってきて、父に何か ていると、ひいおばあさんが 降っていました。父と田に行っ 18年の6月、その日は雨が

た」と言いました。 ただ「重忠が戦死し と尋ねました。父は 「どしたんですか?」 道、私はたまらず るようでした。帰り われん」と言ってい を話し「言われん言 ん)も中国で戦死し、 主人の弟 (重明さ

二人の葬式を一緒にしました。 心の悲しみはどれほどでしょ 子どもを二人亡くした両親の

ぞにおる気持ちです。 りません。今でも元気でどこ 私には主人の死の実感があ

すから。 せん。残るのは悲しみだけで せんでした。手紙に「頼む頼 と言われました。私は戻りま と、ええ帰らんかったんです。 む」と書いた主人のことを思う 戦争は絶対にしてはいけま 私の里からは「戻ってこい」

した。

が去ると、「大丈夫か?」とみ その場に伏せました。艦載機 でいました。でも母は足が悪 いる時、空から艦載機がパンた。私が母と田んぼに行って けんはよ橋の下入れ」と叫ん 田んぼに出ていた人が「危ない パンと弾を落としてきました。 んなが走ってきてくれました。 一度大変怖い思いをしまし 田んぼのど真ん中。二人で

> 父と田んぼにいました。音が 当たってはいませんでしたが であれが原爆だったと知りま たんです。お昼に帰り、ラジオ と何かが落ちて行くのが見え い雲のような中からピラピラ して北の空を見あげると、黒 みついて、痛みを感じました。 パンパンという音が背中に染 広島に原爆が落ちた時は、

掘っていました。地域や小学 縫いました。 が出征するときには千 校では竹やりやバケツに水く んで訓練をしました。組の人 戦時中は、家に防空壕を 人針を

ろは苦労しました。 られません。とにかくあのこ せです。私は今でも物が捨て れる時代に生きる今の子は幸 縫って着せました。物があふ こわして、その子に合わせて る物は、自分が着ていた服を ませんでした。子どもに着せ 何より、戦時中は物があり

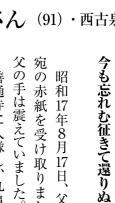
「静子を頼む 家を頼む

◇語り部 幸予さん 本多 (92)• 中川原

拡がるばかりの戦線。徴集されていく人々。 中川原の本多幸子さんの夫・重忠さんもニューギニアへ。 「今でも元気でどこぞにおる気持ちです」と話す本多さん。 夫へ寄せる数々の思い出と戦時中の暮らしぶりを回想する。



義農神社境内にある忠霊塔。戦没者 742 柱が 祀られている。昭和 31 年 12 月建立



今井善範さん へ。19年4月29日、インパール

ないと自分が死ぬ。人間の感 兵器、装備、補給の差が歴然で 戦でやられっぱなしです。ビ う弾5発を与えられていまし の時はそれで死ね」と手りゅ けにはいかないので「もしも は危ない」と毎日思いました。 覚ではありません。「今日こそ 画でした。戦場では敵を殺さ に行くまでは皆殺しにする計 した。米の軍隊は、インパール ものです。米軍と日本軍では 人が入ったって、アリみたいな ルマの山は実に険しく、日本 激戦でした。19年以降は消耗 私たち軍人は捕虜になるわ

きました。 ビルマには45万人 族の名を呼びながら死んでい た。戦地では多くの戦友が家 宛の赤紙を受け取りました。

出港。広島から上海、シンガ 父の手は震えていました。 善通寺に入隊し、丸亀港を ルを経て、激戦地ビルマ

マー) に着いたとたん最前線で 戦地のビルマ(現ミャン

戦友のことを思う

忘れられない思いを歌に詠み続けている。

戦地ビルマで多くの戦友を失った今井善範さん。 世界各地の収容所で耐え難い苦労を重ねた。 終戦以降も、多くの兵士は捕虜となり 異国の地で命果てた多くの若者がいた。 祖国への帰還を夢見て

米作らんと父の手握る激戦地インパールより

程が亡くなりました。

18万人

を思えばつらい。生還した喜

ルより復員し

谷上等兵と一緒に岡田の駅に 横須賀に帰りました。昭和21 ど現地で働きました。それか 年7月1日のことでした。鳥 コクへ集結。復員船に乗って、 ら復員の命令がくだり、バン ました。1年ほど道路工事な も連合軍に渡し、捕虜となり た。武装解除になり、鉄砲も剣 ました。信じられませんでし コヒマで日本の敗戦を知り

総攻撃の戦に参加しました。

ビルマの山に骨になりたり 我が子抱く写真をみせし戦友は

けれど、戦死した戦友のこと出します。自分はかまわない うのが正直なところでした。 今でも毎日戦友のことを思い けれど、生きて帰りたいとい で、戦死も覚悟していました。 なければならないという教育

にも多くの友が死にすぎまし

みのほうが強かった。あまり びよりも、戦友を失った悲し

た。祖国を守るために死んで

ないためにも、次世代の人た

いった彼らの思いを無駄にし

に帰ったんだなと思いました。 の時期で、我々は米を作りに 着いたとき、ちょうど田植え 散った戦友(友のおかげ) に湯割り多めにいただきま 詠むようになりました。日記 今、日本は平和だ。 した。頭に浮かぶビルマ戦に (日記より) ビルマ戦 を祈らずにはいられません。 もつけています。戦友の冥福 継いでほしいと思います。 ちに今の平和をしっかり引き インパール作戦に参加。お昼 25年程前から、戦争の歌を



善通寺で訓練を受け、戦地に行く前に隊員らと撮った 写真。昭和18年10月ごろ

日本国民は天皇に命を捧げ

天が1隻に当たったおかげで、決め、浮上。発進した2基の回 漏れるで窒息死しそうになる。 我々の船は1日半沈んでじっと 気づかれ、駆逐艦に攻撃され 残りの駆逐艦が逃げた。 誉の死を遂げろ」と皆で覚悟を 浮き上がった時点でどうなる がらなければならなくなった。 6本出した。潜水艦がいるのに もここで死ぬのなら、回天も名 かわからない。艦長は「わしら もう酸素が底を突き、浮き上 していた。海水は入る、ガスは ぶ輸送船団を見つけ、魚雷を 終戦を知ったのは8月16日 8月10日、 沖縄へ物資を運

号は沈まず生き残った。年月 だった。8月20日、呉に帰った。 が経つにつれ、特攻隊員たちが 死を覚悟していたが、伊8

ポリスは沈んだ。この船が原爆 を打った。命中。インディアナ

の部品を運んだ帰りであったこ

墓前で「日本を守ろうとしたあ 県内出身の回天特攻隊員の墓 前、せめて自身で行ける範囲で ははわずかる人だった。5年 ているが、参加者は減少。今年 成4年からは毎年3月、基地の どういう気持ちで出撃したか た。 なたの思いは忘れない」と伝え を巡ろうと思い、2人の隊員の あった大津島で慰霊祭を行っ 艦長が亡くなり、途絶えた。平 が気になった。戦友の集まり

兄も戦争で亡くしたし、母はど 学するとき、見送ってくれた母 を振り続けていた。今思えば、 は何も言わなかったけれど、手 母の思い。海軍の潜水学校に入 んな思いだっただろう。 それから、思い出されるのは

遺族も同じだと思うが、今思 どもにも話したことがなかっ えば、間違いだったと思う。 乗組員をはじめ、アメリカ軍の は正義だと教えられた。回天の でも今は私の思いを伝えたい。 た。本当に誰にも言わなんだ。 孫に話した。それまで兄弟、子 た映画ができたとき、初めてひ 当時は教育で、こういう戦い 2年前、伊5号をモデルにし

私の思いを伝えたい。 でも今は

誰にも言わなんだ。

清積さんが乗っていた

の潜水艦

水艦の前甲板で撮影 解散前に伊号第58潜 照和20年8月20日、

日本海軍

軍のインディアナポリス号を沈めた。 彼の乗った日本軍「伊号第58潜水艦」は の乗組員だった。 上高柳の清積勲四郎さんは、回天を搭載した潜水艦 自ら操縦して敵艦に突っ込む人間魚雷「回天」。 人間が魚雷に乗り込み、

広島・長崎に落とされた原子爆弾の部品を運んだ米 体験者でなければ知りえない多くの出来事を語った。

での給仕。いざというときはバ

若かった。普段の仕事は士官室

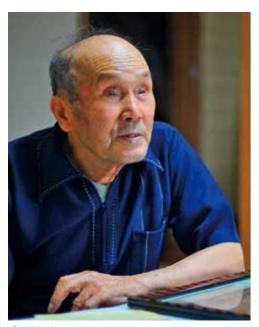
ルブを開閉する配置についた。

昭和20年7月18日、山口の平

組員の中で1番

当時17歳。乗

と教えられた。 出たら即戦争だ」 は「潜水艦は海に 属された。艦長に 第58潜水艦」に配 の半年前、「伊号 学校を経て終戦



清積勲四郎さん

を無駄にはできんと言って魚雷 らない可能性が高い。艦長は命

(84)

の潜望鏡レンズは昼間用で当た

と艦長に頼み込んでいた。回天 く「自分に沈めさせてください」 組員は洗脳されているかのごと

雷と回天を準備した。回天の乗 の船と判断。すぐに潜った。魚 長が偶然黒い点を見つけた。敵 三日月をスポットライトに航海 日夜、真っ暗な中浮上すると、 積んで沖縄南方海域へ。7月29 生基地で回天の乗組員6人を

1 2012-8 ❖ 広報 まさき

争だけは絶対にやめてほしい。

若くして散った特攻隊員

松前町出身の林憲正海軍少佐

死を覚悟して敵艦に突っ込む特別攻撃、通称「特攻」。太平洋戦争末期 の約 10 カ月間、特に沖縄防衛戦では、陸海軍ともに特攻隊が大量投入さ れました。航空機による戦死者は約4千人、人間魚雷回天」、水上特攻艇震 洋」などを合わせると5千8百人以上になると言われています。

片道分の燃料で飛び立ち、戦死していった特攻隊員たち。その中に、 松前町徳丸で生まれ育った林憲正海軍少佐がいました。

林憲正海軍少佐の遺稿(日誌)から一説を抜粋して紹介します。

四月十三日

…残された者たちよ、強く誇りを持ってそして勇ましく喜んで死んで行った 勇士たちの名を恥かしめぬよう、生きて下さい。

七月三十一日

今日こそ出撃の日である。我が流星隊八機の特攻 攻撃の日である。…飛行場へ来ると私達の飛行機 に搭載すべき品々がきれいに整理されて置いてある。 昨夜身につけるものもすっかりかえた。母上の送っ てくださった千人針も腹に着けた。弓立の小母様の 下さった新しい純白のマフラーも用意した。私の身 の廻りにある最上等のものを身につけたわけだ。

出撃命令をいまかいまかと待ちながら、ただひとり 防空壕に入ってこれを記している。

父上、母上はじめ兄弟姉妹、その他親戚知人の皆 様、さようなら。お元気でやって下さい。私は今度 は「アンデルセン」のおとぎの国へ行ってそこの王 子様になります。

そして小鳥や花や木々と語ります。

大日本帝国よ、永遠に栄えんことを。



林 憲正 海軍少佐

八月三日

快晴の夏がつづいて俺は未だ生きている。あの日、 敵機動部隊は姿を消してしまったのである。…

八月九日

敵機動部隊が再び本土に近接して来た。一時間半 後に私は特攻隊としてここを出撃する。秋の立った 空はあくまで蒼く深い。

八月九日! 私は新鋭機「流星」を駆って、アメリ カ空母に体当たりするのである。ご両親はじめ皆様 さようなら。戦友諸君、ありがとう。

八月九日、神風特別攻撃隊第七御楯隊第二次流星隊で出 撃、本州東方海上にて戦死 25歳

までの心の叫びがつづられてい ました。彼の日記にはその直前 飛行専修予備学生同期の林憲 だと、私は強く思うのです。 止様も、特攻隊として戦死され 人を顕彰してあげないかんの 生きている人が亡くなった

は行きの燃料しか積んでくれ 使ったことは許されん。そう思 がよいとされていました。そう ません。帰ってくるなというこ う。強く思う。 ら、若い者の命を弾の代わりに じゃない。大事な大事な命だか とです。その頃は潔く死ぬの 北伊予出身の大先輩で海軍

命が、次から次へと失われてい れません。 めていたら、被害が少なくて済 のかもしれませんが、早めにや です。戦死した人のために最後 続けたことが問題だと思うの きました。特攻隊の飛行機に まで戦い抜いたというのもある んだはずという思いがぬぐいき 戦争で、若い者の命、大事な ああいう戦争をいつまでも

天に乗りました。

行機がなくなって人間魚雷回 だのです。私の後の14期生は飛 かったから、突っ込まずにすん

次から次へ散った 若い命

大事な命



濟川さんが操縦していた 艦上攻撃機「天山」

海軍航空隊に入隊。壮絶な戦いの中で、 仲間と運命を分け合った濟川裕さん。 「若い者の命を弾に使ったことは許されん。 そう思う。強く思う」と訴え 「生きている人が亡くなった人を顕彰してあげないかんのだと 私は思うのです | と力を込める。

いました。

飛行機のない残りの搭乗員、

体当たり攻撃の激戦が行われの鹿屋、串良の基地からは連日

全員が戦死しています。鹿児島 特攻隊として鹿児島に行き、 す。先に飛行機で戻った人は、 の分かれ道だったように思いま 機で先に帰るかどうかが運命

目にやられました。レイ 海軍も関東軍もひどい 関東軍をレイテ島に送 戦のときに、満州にいた レイテで大敗しました。 りました。送った船団は フィリピンのレイテ海



昭和19年8月に台湾へ行く前、自宅で 撮った家族写真

8月15日、私は小松で終戦

不足のため飛び立てずにいま 続投をしていましたが、飛行機 ちは、小松航空隊で待機・訓練 ていた一方で、後で戻った私た

たのです。戻ってくるときも、 を迎えました。私は運が良かっ

台湾の東港に航空隊の教官と て、翌年8月に実施部隊として して配属され、船団護衛をして した。基礎訓練、操縦訓練をし 海軍航空隊に入隊しま]海軍飛行科予備学生に]は昭和18年9月、13期

> されていたため、皆を送ってか 帰りました。私は責任者を任 員と搭乗員ら20人ほどが先に 残った飛行機 5機ほどで、整備 引き返せ」という司令が出て、 「台湾にいて用事がないなら 機がないと仕事ができません。 かれてなくなりました。飛行 て、台湾も高雄も飛行機が焼 10月、アメリカの機動部隊が来 てもひどい目にやられました。 ら、いくらこちらに零戦があっ ました。戦闘機が集団で来た な、零戦以上の飛行機を作り

弾が当たっても貫かないよう

ように私は思います。 あのとき、戦争は決まっていた 昭和18年から、 メリカは

濟川裕さん (88)・鶴吉

島によって帰国したため、何日 日本に向け出港。魚雷にやら と陸軍が乗った日光丸に乗って 20年3月、聖川丸(元水上母艦) で輸送船を待ちました。昭和 丸は4月5日、魚雷攻撃で沈め もかかりました。共に出た日光 れないよう、中国沿岸伝いに青 られてしまいました。

石川県小松海軍航空隊へ帰っ 撃を受けて艦尾の吹きとんだ私の乗った聖川丸は、魚雷攻 てきました。 護衛艦を曳航して門司に帰着。

思えば、残された飛行機5

《参考文献》松前町誌、北伊予の伝承第5集、はるかなる故国を想いて-航空 特別攻撃隊二十二柱(愛媛出身)の鎮魂譜(星文社)

武蔵もレイテでやられました。

整備員ら120人は、台湾基地